

それぞれの未来

みらい

森林資源を地域の力に

4月には多くの人が通いながら学校や友人と離れ、新しい生活を始める1年でも特別な月。特に、高校卒業は一人暮らしを始めたり、社会人として責任ある立場になったりと大きな転機になる。今年、市内の高校から283人※が卒業し、それぞれの進路へ向かう。さまざまな思いを抱え、一歩踏み出した彼らに話を聞いた。

※祥雲支援学校高等部15人、釜石商工高校94人、釜石高校174人



釜石高校 理数科 藤井俊介さん
(岩手大学農学部 森林科学科へ進学)

釜石地方森林組合訪問時にとったノート

— 森林を勉強したいと思ったきっかけは？

釜石高校はSSH※に指定されており、その中で釜石地方森林組合のお話を聞いたことや、グループ研究のテーマに甲子柿を選んだことがきっかけです。実は甲子柿は年間8トンほど商品にならず廃棄されていますが、勉強してみようとバイオエタノールとして活用する方法があると知りました。

そういったことを調べるうちに、林地残材※にも興味を持ち、木質バイオマスとしてエネルギーにできるなど、森林にはさらなる可能性があると感じてこの進路を選びました。

※スーパーサイエンスハイスクール。文部科学省が理科・数学教育などを重点的に行う高校を指定する制度

※伐採したものの運び出されず、未活用の木材

— 理系の進学は難しくそうというイメージもあります。モチベーションを高く保てたことは？

目標を定めてからは、とにかく森林について勉強しました。たくさん本を読み、森林組合でもお話を聞きました。森林組合の高橋参事は昨年10月に伺った2日間、夕方の時間にも関わらずとても情熱的に教えていただきました。なぜそんなに情熱的に教えていた

— どんな将来を目指していますか？

将来は釜石に戻り、学んだことを生かして林地残材などの資源活用を指導できるような人材になりたいです。釜石は育ってきた土地ということももちろんありますし、面積の9割を占める森林を活用したい、自然がいっぱいいるところなのにもったいないという思いもあります。

— 高校生活の思い出は？

印象深いのは高校から始めた弓道です。それまで12射のうち7射当たるのが自己最高記録でしたが、このまま終わらせない、指導してくれたコーチにも恩返しをしたい、という思いで練習に励んで臨んだ最後の高総体で覚醒(笑)。12射中11射当てて、最高の終わりを迎えることができました。最初は「勉強と部活のバランスがとれそうだな」と思って入部した弓道部ですが、引退後に自分の弓を買うほど好きになりました。

— この進路を選んだきっかけは？

県外での就職を考えた時期もありましたが、慣れ親しんだところで、という思いもあり最終的には地元での就職が目標になりました。そんな中、釜石コンパス※でお話を聞く機会があり、仕事内容に興味を持ったのがきっかけです。その時は処方箋の間違い探しなど、楽しい切り口で業務内容を教えてもらったのを覚えています。夏休み期間に見学に伺い、皆さんが明るく仕事をしている雰囲気の良い職場と感じ志望し、内定を頂きました。

※高校生が多様な可能性を知るために、社会人と対話交流するプログラム

— 今後の目標は？

仕事を覚えながら、資格取得なども目指し戦力になっていきたいです。

— 高校生活の思い出は？

中学校からソフトテニス部に所属し、高校時代も部活に力を入れました。これからの体は動かしたいので、出来る場所があればテニスは部活の友達と続けていきたいですね。

コロナ禍で学校行事が思うようにできなかつたり、修学旅行が中止になり寂しいところがありました。

笑顔で迎える春



釜石商工高校 総合情報科 松下ひなのさん
(有限会社 中田薬局へ就職)



6年間打ち込んだソフトテニス (釜石商工高校提供)

— 友人の皆さんにメッセージをお願いします。

友達の半分くらいは市外・県外に出します。遠くに離れる人もいて、環境は大きく変わるけど、お互いに頑張ろう！

たくさんの資格取得を目指す



釜石商工高校 機械科 長洞 和馬 さん
(日鉄物流釜石 株式会社へ就職)

「物流の仕事を選んだきっかけは？
当初は機械科で3年間勉強してきたということもあり、機械関係がそれに近い仕事を考えていました。物流の仕事に目を向けたのは、中学校から一緒に、先に就職した先輩の話を聞いたことがきっかけです。」

「人の繋がりが進路につながったんですね。社会人になる上での目標は？
港湾荷役の仕事と伺っています。まずは仕事をきちんと覚えることが目標ですし、たくさんの資格取得のことを目指しています。」

高校生活の思い出は？

「コロナウイルスの影響でたくさんの行事が規模縮小や中止になる中で、クラスメートとこのような状況を乗り越えられたことが印象に残っています。授業では機械工作を学びましたが、旋盤やフライス盤を使った緻密な作業は神経を使う作業だったな、とか製造の作業はやっていて楽しかったなど、いろいろ思い出します。」

「これからできることも大きく増えると思います。やってみたいことは？
車をいじりたいと思っています。これからのように自分の好みに仕上げていくか考えていて楽しみです。」

「機械科の経験が趣味に生きそうですね。学友の皆さんにメッセージを。
3年間一緒だった同級生。中には小

人との繋がりを大切にしている職員に



釜石高校 普通科 佐々木 里桜 さん
(釜石市役所へ就職)

厳しくも楽しい思い出の詰まった吹奏楽部練習ホールにて

「行政の仕事を目指したきっかけは？
父が町内会・消防団など地域の役職などをしていて、私も地域に関わる仕事をしたいという思いがありました。また、SSHの研究活動で私たちのグループは唐丹町を調べたのですが、地域に入っていく中で行政の方に力を貸していただき、カッコいい仕事だと思いを志望しました。」

唐丹町にはどんな印象を持ちましたか？

「2年生の1年間をかけて研究したのですが、地域に入ってお話を伺う中で、唐丹の魅力が発見することができ、素敵なところだと感じました。インタビューで出てきた「唐丹は町の団結が強い」という言葉が印象に残っており、これからも結束力の強いまちが続いていったらいいなと感じました。」

どんな職員を目指していますか？

「釜石を想い、職場の中でも外でも人との繋がりを大切にしていきたいです。」

高校生活の思い出は？

「吹奏楽部に所属し、定期演奏会などで少しでも市民の皆さんに笑顔になってもらいたいという思いがあり活動してきました。小学4年生から箱崎虎舞に参加しており、笛を吹くことに親しんでいたのも、中学校から吹奏楽部に入りフルートやピッコロを吹くようになったのも自然な流れだったと感じて

学校・中学校から一緒にいる人もいます。毎日会うのが日常だったけれど、これからは別々の場所でお互いに頑張っていく。

18年の足跡と釜石の出来事

2003 (平成15) 年	0歳
出生	
2007 (平成19) 年	4歳
橋上市場が閉店・移転	
2008 (平成20) 年	5歳
仙人峠道路開通	
釜石高校が開校	
唐丹町で林野火災	
2009 (平成21) 年	6歳
唐丹小/中仮設校舎で授業開始	
唐丹小/中仮設校舎で授業開始	
2011 (平成23) 年	8歳
釜石山田道路開通	
東日本大震災	
2012 (平成24) 年	9歳
釜石市/中仮設校舎で授業開始	
釜石市/中仮設校舎で授業開始	
2013 (平成25) 年	10歳
上中島町に復興公営住宅竣工…市内第1号	
市営球技場リニューアルオープン	
2014 (平成26) 年	11歳
釜石消防署新庁舎が完成	
2015 (平成27) 年	12歳
道の新釜石仙人峠オープン	
橋野鉄鉱山が世界遺産登録決定	
2016 (平成28) 年	13歳
釜石高校硬式野球部21世紀杯で春の甲子園出場	
希望郷いわて国体	
2017 (平成29) 年	14歳
唐丹小・唐丹中学校舎での学習スタート	
鶴住居小・釜石東中学校舎での学習スタート	
尾崎半島林野火災	
釜石市魚市場供用開始	
釜石市民ホールTETTO開館	
2018 (平成30) 年	15歳
市制施行80周年	
釜石港湾港防波堤完成	
釜石鶴住居復興スタジアムオープン	
2019 (平成31・令和1) 年	16歳
高校へ入学	
三陸沿岸道路(市内区間)、東北横断自動車道釜石秋田線(全線)開通	
新元号「令和」へ	
ラグビーワールドカップ2019開催	
釜石市民体育館オープン	
2021 (令和3) 年	18歳
東日本大震災から10年目を迎える	
東京オリンピックピック2020	
2022 (令和4) 年	
高校を卒業	

彼らは小学2年生の時、東日本大震災が発生し、10代の大部分を復旧・復興という言葉とともに過ごしてきた。その中には住居や近しい人を失った人も少なくないだろう。

また、長期化するコロナ禍の中で、学生生活にさまざまな制約を感じることもあったかもしれない。それでもお話を伺った皆さんは誰もが学生生活は充実し、楽しいものだったと振り返り、将来に向けて着実に歩みを進める力強さを見せてくれた。前を向く彼らの未来は、きっと明るい。

います。練習が大変な時期もあったけれど、沿岸大会・県大会を1位通過し、東北大会まで進むことができたのはいい思い出です。

友人や先輩の皆さんへのメッセージを。

市外に進学して、そのまま外に住む人も多いと思いますが、一人でも多くの方が釜石に戻ってきてくれたらうれしいです。